

# 古文「めり・らし・なり」推定の助動詞 識別 100題ドリル

対象：高校生・大学受験生 | 著作権：誰でも古典塾 (kotennosensei.com) 無断転載禁止

## はじめに

「めり」「らし」「なり」は、どれも「～らしい・～ようだ」と訳せる推定の助動詞ですが、「何を根拠に推定しているか」で使い分けます。さらに「なり」は**断定**の「なり」と紛らわしく、**接続**で見分けます。

傍線部を次の**4タイプ (ア～エ)** に分類しましょう。

記号	語・意味	根拠・目印	接続
ア	めり (視覚推定・婉曲)	目で見ても「～ように見える」	終止形 (ラ変は連体形)
イ	なり (聴覚推定・伝聞)	音・声・人づても「～と聞こえる／～だそうだ」	終止形 (ラ変は連体形)
ウ	らし (根拠ある推定)	確かな根拠「～らしい」 (和歌に多い)	終止形 (ラ変は連体形)
エ	なり (断定)	「～だ・～である」と言い切る	体言・連体形に接続

鉄則 - めり → 目で見えた推定 (ア)。らし → 根拠ある推定 (ウ)。この2つは断定と紛れない。 - 「なり」は接続を必ず確認。終止形に付けば推定・伝聞 (イ) / 体言・連体形に付けば断定 (エ)。 - 例：「鳥鳴くなり (終止+なり=聞こえる→イ)」 ⇔ 「鳥は鳥なり (体言+なり=断定→エ)」。

## 🎯 解き方のコツ

- まず語を見る。「めり」ならア、「らし」ならウで確定 (断定と混じらない)。
- 「なり」が出たら接続をチェック。直前が体言か連体形なら断定 (エ)。直前が終止形なら推定・伝聞 (イ)。
- サ変「す」なら、終止「す」+なり=推定 (イ) / 連体「する」+なり=断定 (エ)。下二段なら終止「聞こゆ」 / 連体「聞こゆる」で見分ける。
- めり=目 / なり=耳・人づても / らし=根拠、と根拠で覚える。

## 採点表

部	問題	目標
第1部 基礎	Q1～Q20	18／20
第2部 標準	Q21～Q50	24／30
第3部 応用	Q51～Q80	21／30
第4部 入試	Q81～Q100	14／20

### 【第1部】基礎 (Q1～Q20)

Q1. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

> 見れば、人々はや帰るめり。

Q2. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> いづくにか、笛の音すなり。

Q3. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

> (歌) み吉野の山に雪降るらし。

Q4. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> これは、都の人の家なり。

Q5. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

> 風吹きて、花散るめり。

Q6. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 山のあなたに、鹿の鳴くなり。

---

Q7. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ か人は、やむごとなき大臣なり。

---

Q8. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

▶ (歌) 秋の野に、萩咲きぬらし。

---

Q9. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

▶ 子ども、皆寝ぬめり。

---

Q10. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 夜更けて、遠く鐘の聞こゆなり。

---

Q11. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 我こそは、この国の主なれ。

---

Q12. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

▶ 月、山の端に出づめり。

---

Q13. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

▶ (歌) 衣ほすてふ夏来たるらし。

---

Q14. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 軒のあたりに、水の流るなり。

---

Q15. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ ここは、昔の宮の跡なり。

---

Q16. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

▶ 道のほとりに、人多く集ふめり。

---

Q17. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 戸の外に、人の来（く）なり。

---

Q18. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

▶ (歌) 龍田川、紅葉乱れて流るらし。

---

Q19. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ この笛、世に名高き宝なり。

---

Q20. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

> 雲行きあやしく、雨降るめり。

## 【第2部】標準 (Q21～Q50)

解答：

Q21. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> 草むらに、虫の鳴くなり。

Q22. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> 答へていはく、「我は漁師なり」と。

Q23. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

> 庭の桜、はや咲き初むめり。

Q24. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

> (歌) 天の香具山、霞たなびく春来ぬらし。

Q25. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> 壁を隔てて、人の物言ふ声すなり。

Q26. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> 持ちたるは、めづらかなる唐の鏡なり。

Q27. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

▶ 舟、はや岸を離るめり。

---

Q28. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 軒の松に、風の渡るなり。

---

Q29. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ この童は、商人（あきびと）の子なり。

---

Q30. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

▶ （歌）あしひきの山ほととぎす、今ぞ鳴きぬらし。

---

Q31. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

▶ 火、いよいよ燃え広がるめり。

---

Q32. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 谷の方より、水の落つなり。

---

Q33. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 答へけるは、「これなむ、求めし玉なる」。

---

Q34. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

▶ 人々の気色、いと心苦しげな**めり**。

---

Q35. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 「上達部、皆参り給ふ」といふ**なり**。

---

Q36. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ かの聖の住む所は、深き山の奥**なり**。

---

Q37. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

▶ (歌) み熊野の浦の浜木綿、咲きぬ**らし**。

---

Q38. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 軒近く、鳥の羽うつ音**すなり**。

---

Q39. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

▶ 日暮れて、人かげまれなる**めり**。

---

Q40. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ この所、もとは海**なりき**。

---

Q41. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 都には、疫病いみじくおこるなり。

---

Q42. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

▶ 客人（まらうど）、はや立ち帰るめり。

---

Q43. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

▶ （歌）富士の嶺に、雪はなほ降るらし。

---

Q44. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 持て来たるは、よく切るる刀なり。

---

Q45. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 軒の雫、いまだ落つなり。

---

Q46. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

▶ 病、日にそへて重るめり。

---

Q47. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ われは、その家に仕ふる女房なり。

---

Q48. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> 「帝、やがて行幸あるべし」といふなり。

Q49. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

> (歌) 春日野の若菜摘みつつ、君を待つらし。

Q50. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

> 池の蓮、おほかた散り果てぬめり。

### 【第3部】 応用 (Q51～Q80)

解答：

Q51. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> 風の音にぞ、秋の来(き)ぬるなりと知らるる。

Q52. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> ものの音、絶え絶えに聞こゆなり。

Q53. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> あれは、世に隠れなき笛の上手の奏するなり。

Q54. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> いづこにか、人のすまふなり。

Q55. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

▶ 灯（ともしび）の影、かすかにゆらぐ**めり**。

---

Q56. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ よく見れば、これは作りたる花**なり**。

---

Q57. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

▶ （歌）我が宿の梅、今を盛りと咲く**らし**。

---

Q58. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 暁、鶏（とり）の鳴く**なり**、いざ立たむ。

---

Q59. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ このわたりに住むは、いやしからぬ人の**住むなるべし**。

---

Q60. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

▶ 雪うち積もりて、道も見えぬ**めり**。

---

Q61. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ その帝は、世を治むること九年**なりき**。

---

Q62. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 山風に乗りて、遠く笛の吹くなり。

---

Q63. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

▶ (歌) ひぐらしの鳴きつるなへに、日は暮れぬらし。

---

Q64. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ これこそ、年ごろ尋ねし父の形見なれ。

---

Q65. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

▶ 客、酔ひて、いたく乱るめり。

---

Q66. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 帳のうちに、人のうち嘆くけはひすなり。

---

Q67. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 文を開きて見れば、別れを告ぐる言葉なり。

---

Q68. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 「この寺は、いと靈驗あらたかなる所」と人いふなり。

---

Q69. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

▶ (歌) 水鳥の立ちし騒ぎに、敵(あた)の寄せ来(く)らし。

---

Q70. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

▶ 馬、草に飽きて、いま臥(ふ)すめり。

---

Q71. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 笛を吹くは、かの有名なる楽人(がくにん)のするなり。

---

Q72. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 軒端を、しきりに雨のうつなり。

---

Q73. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

▶ かの女、このごろ心地わづらふめり。

---

Q74. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 御簾のうちに、琴をかき鳴らすなり。

---

Q75. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

▶ 帝のおはします所は、内裏といふ所なり。

---

Q76. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

> (歌) 秋萩の散りゆく見れば、鹿鳴きぬらし。

---

Q77. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> 戸を叩きて、何やらん告ぐるなり。

---

Q78. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

> 月明かければ、虫も鳴かで、ただ静かなめり。

---

Q79. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> 隣にて、人の声高に物言ふなり。

---

Q80. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> この皮衣（かはごろも）は、まことの火鼠（ひねづみ）の皮なり。

#### 【第4部】入試 (Q81～Q100)

解答：

---

Q81. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> 夜もすがら、軒の雨のそそくなりを受けて、明かしつ。

---

Q82. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> よく見れば、人と見えしは枯れたる木なりけり。

---

Q83. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

> 風いで来て、釣りする舟ども、はや漕ぎ帰るめり。

---

Q84. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

> (歌) 天の原ふりさけ見れば、月かたぶきぬらし。

---

Q85. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> 几帳のかげに、衣のふれ合ふ音すなり。

---

Q86. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> 答へていはく、「この道を行けば、京にいたるなり」と。

---

Q87. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

> 主（あるじ）の心ばへ、いとあはれに、人をいたはるめり。

---

Q88. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> をちかたに、舟こぐ音のかすかにすなり。

---

Q89. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

> (歌) み吉野の山辺に見ゆる白雪は、花の散るらし。

---

Q90. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> この人は、もとは藤原のなにかしと聞こえし人**なり**。

---

Q91. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

> 花は盛り過ぎて、葉がちになり**ゆくめり**。

---

Q92. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> 暁方、鶏のしきりに**鳴くなり**、人々起き出づ。

---

Q93. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> この瓜は、いとよく熟（う）れたる**なり**、召し上がれ。

---

Q94. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

> （歌）今朝来鳴きいまだ旅なる、ほととぎす花橋に**宿るらし**。

---

Q95. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> 夜深く、時を告ぐる鼓（つづみ）の**鳴るなり**。

---

Q96. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

> 旅人、道に迷ひて、いと**わびしげなめり**。

---

Q97. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> 北の方は、按察使（あぜち）の大納言の御むすめ**なり**。

Q98. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> 深き夜、遠き寺の鐘の**つくなり**を、ひとり聞く。

Q99. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

> (歌) 秋来ぬと、目にはさやかに見えねども、風の音にぞ秋は**たちぬらし**。

Q100. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

> をりふし、御簾のうちに、箏（さう）の琴を**しらぶる音すなり**。

## 採点・振り返り

部	点数
第1部 基礎 (Q1～Q20)	/20
第2部 標準 (Q21～Q50)	/30
第3部 応用 (Q51～Q80)	/30
第4部 入試 (Q81～Q100)	/20
合計	<b>/100</b>

復習のポイント - むり (ア) = 目で見たと推定、らし (ウ) = 根拠ある推定。この2つは断定と紛れない。 - 「なり」が出たら必ず接続を確認。終止形+なり = 聴覚推定・伝聞 (イ)、体言・連体形+なり = 断定 (エ)。 - とくにサ変は「す+なり (推定)」と「する+なり (断定)」、下二段は「聞こゆ+なり (推定)」と「聞こゆる+なり (断定)」で見分ける。 - 「なり」の断定・伝聞推定の識別は頻出。「なり」の識別ドリルとあわせて仕上げよう。

解答：

